

高次脳機能障害者の調理場面におけるエラーの特徴と認知機能の 関連性の検討

高野 友美¹⁾ 北上 守俊^{1, 2)} 秋山 明美¹⁾ 荻荘 則幸³⁾

*1 新潟県障害者リハビリテーションセンター

*2 新潟医療福祉大学

*3 ゆきよしクリニック

(2019年12月11日受付, 2020年1月7日受理)

要旨

高次脳機能障害者は日常生活活動の自立度が高い一方で、手段的日常生活活動は介助量が多く、調理では自ら目標を設定して作業を開始できるが、適切な手順を進めることが難しくなると言われている。しかし、高次脳機能障害者の調理訓練におけるエラーの特徴や神経心理学的検査の関連性についての報告は少ない。そこで本研究では、調理訓練記録表の内容をもとに具体的なエラーを抽出し、日本版BADS遂行機能障害症候群の行動評価(以下、BADS)との関連性について検討した。その結果「材料の切り方」、「調理手順」、「片付け」でのエラーが多く、片手での調理経験の乏しさ、作業記憶や注意機能が調理訓練におけるエラーに影響を及ぼしていることが明らかとなった。調理訓練時のエラー合計数とBADSの相関を検討したところ、いずれも相関を認められず、発症前の調理経験の有無が調理訓練におけるエラーに影響を及ぼしている可能性が示唆された。

キーワード 高次脳機能障害, 調理, 認知機能
